

特殊報

奈良県病虫害防除所長

平成29年度病虫害発生予察特殊報

1. 病虫害名 ムツスジアシナガゾウムシ

学名 *Alcidodes waltoni* (Boheman)

2. 対象作物 サツマイモ

3. 特殊報の内容 本県における初被害を確認

4. 発生地域 奈良県中和地域

5. 発生確認の経緯

- 平成29年10月16日に、橿原市昆虫館より橿原市内のクズ群落で本種と疑われる成虫を採集したとの連絡があり、同日に発生を確認しました。
- 10月～11月に、初確認場所周辺のサツマイモほ場において、主に収穫後のサツマイモのツルに本種幼虫の食害によると思われる被害痕と脱出孔、成虫が確認されました。
- 神戸植物防疫所に同定を依頼したところ、ムツスジアシナガゾウムシ *Alcidodes waltoni* (Boheman) と同定されました。

6. 国内での発生状況

- 本種は1870年代にG. Lewisがヨーロッパに持ち帰った日本産ゾウムシ類の標本に基づいて国内での分布が報告されています。
- これまで国内からは農作物への被害が報告されていませんでしたが、東南アジアから中国南部ではサツマイモ、ジャガイモ等の害虫として知られています。

7. 本種の特徴と被害状況

- 成虫の体長は約9mmで、背面は灰色地に特徴的な黄色い縦筋の模様があります(写真1)。
- 本種が加害する植物として、現在、サツマイモとクズを確認しています。ツルの中に幼虫が穿孔、食害し、羽化した成虫は丸い脱出孔を空けて脱出します(写真2)。サツマイモ塊根への食害は確認されていません。

8. 生態

- 本種は、日本以外に中国南部、東南アジアに分布します。サツマイモ以外にエンサイ、ジャガイモ、ダイズ、ヒマワリ、クワ、カンキツなども加害しますが、幼虫の食草は主にサツマイモ、エンサイなどのヒルガオ科植物であると言われています。
- 成虫は葉や葉柄を食害し、食害部が切断される場合もあります。幼虫はツルの中に穿孔し、幼苗が激しく加害されると枯死する場合があります。幼虫が穿孔したツルは、虫瘤のように

膨れ、その部分から先が生育不良となるか枯死します。

- (3) 国内での生活環は不明ですが、参考に中国での生活環を以下に示します。年2～3世代を経過し、主に石の隙間や樹皮の割れ目、ほ場付近のヒルガオ科雑草などで成虫越冬しますが、一部はツルの中で老熟幼虫でも越冬します。年2世代の福建省北部では、越冬成虫は4月上旬から活動し、5月中下旬に産卵開始、幼虫期は6月上旬～7月下旬です。また第2世代幼虫は7月下旬～9月中旬に見られ、8月下旬から9月中旬に蛹化します。
- (4) 冬期が温暖で夜温が概ね0℃以上の地域では越冬成虫の生存率が高く、少雨で干ばつの年に発生が多いとされます。

9. 防除対策

- (1) 収穫後に成虫もしくは食害されたツルを確認した場合は、焼却処分してください。
- (2) 成虫を見つけたら捕殺してください。またツルの先端が萎凋・枯死した場合は、その手前に幼虫の穿孔による空洞があれば切除して処分してください。



写真1. 成虫



写真2. 食害されたツルと脱出孔

10. 謝辞

本種の発生に関する貴重な情報をご提供頂いた橿原市昆虫館の木村史明博士に厚く御礼申し上げます。

●お問い合わせは

奈良県病害虫防除所 TEL. 0744-47-4481

●その他の情報

病害虫防除所ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/nara/>

奈良県農業情報システム（農作物病害虫・雑草防除指導指針）

<http://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/nara>